

〔 1 〕 次の文を読んで、設問に答えなさい。(30 点)

インド洋は、地中海世界、東アフリカ、西アジア、インド、東南アジアを結ぶ海上の大動脈として、人類の歴史に大きな影響をあたえてきた。それは、東アジアの島国である日本の歴史にとっても無縁ではない。日本は古来、海を通じて海外の文物に接しながら変革をとげてきた。古代より対馬海峡、日本海、東シナ海を通じて、東アジアの大陸や朝鮮半島などから多くの文物がもたらされてきたが、16 世紀以降には、はるか大西洋沿岸からインド洋を通じてアジアに進出してきたヨーロッパ勢力が、南シナ海を経て日本にも到来するようになった。こうして伝えられたヨーロッパの技術や学問・思想などもまた、日本の社会に多大な影響をおよぼした。現在も、インド洋は日本の経済を支える海上物流の大動脈として重要であり、海域の中心に位置するインドの政治的・経済的存在感の高まりなどもあって、ますます注目されている。

それでは、インド洋をめぐる海上交通は歴史的にどのような変遷をたどってきたのか。紀元 1 世紀頃からイギリス東インド会社のインド進出に至るまでの時期の状況を、交易の担い手となった人々や国家の動向に着目し、交流にともなう沿岸地域の文化変容にも適宜言及しながら、600 字以内で説明しなさい。その際、下記のすべてのキーワードを必ず一度は使用し、その下に波線を引くこと。

【キーワード】

季節風      紅海      東南アジア      ダウ船      スワヒリ文化  
ジャンク船      モンゴル帝国      ヴァスコ＝ダ＝ガマ

- 〔2〕 ヨーロッパのキリスト教世界では、古くから聖人伝が流布していた。とりわけ聖ゲオルギウス（聖ジョージ）によるドラゴン退治の伝説は、中世から現代に至るまで様々な場面で寓意的にとりあげられてきた。このことに関する次の《資料1》～《資料3》を参照して、問1～7に答えなさい。（40点）

《資料1》 ヤコブス＝デ＝ウォラギネ『黄金伝説』（13世紀）

（出典：前田敬作・山口裕訳『黄金伝説』第2巻，平凡社，2006年。ただし一部改訳した）

ゲオルギウス（Georgius）は、〈土〉を意味する geos と〈耕す〉という意味の orge からきていて、土すなわち自分の肉体を耕す者というほどの意味である。ところで、X が『三位一体論』で書いているところによると、よい土は、山の高所とほどほどの高さの丘と平坦な畑に見いだされ、山の土は、よい草をもたらし、丘の土は、ぶどうを生み、畑の土は、穀物や果実を産するのに適しているという。それとおなじように、聖ゲオルギウスも、低劣なものを軽んじたから高所にいて、純潔という新緑を身につけていた。また、ほどをこころえ、謙譲であった。だから、天上の飲みというぶどうの美酒をあたえられた。また、へりくだった人であったから、善行という果実をむすんだ。あるいは、Georgius は、〈聖なる〉という意味の gerar と〈戦い〉を意味する gyon とに由来し、聖なる戦士という意味である。というのは、聖人は、ドラゴンを退治し、<sub>(a)</sub> 刑吏と戦ったからである。

《資料2》 マルティン＝ルター「天来の預言者らを<sup>ばく</sup>駁す、聖像とサクラメントについて」(1525年)

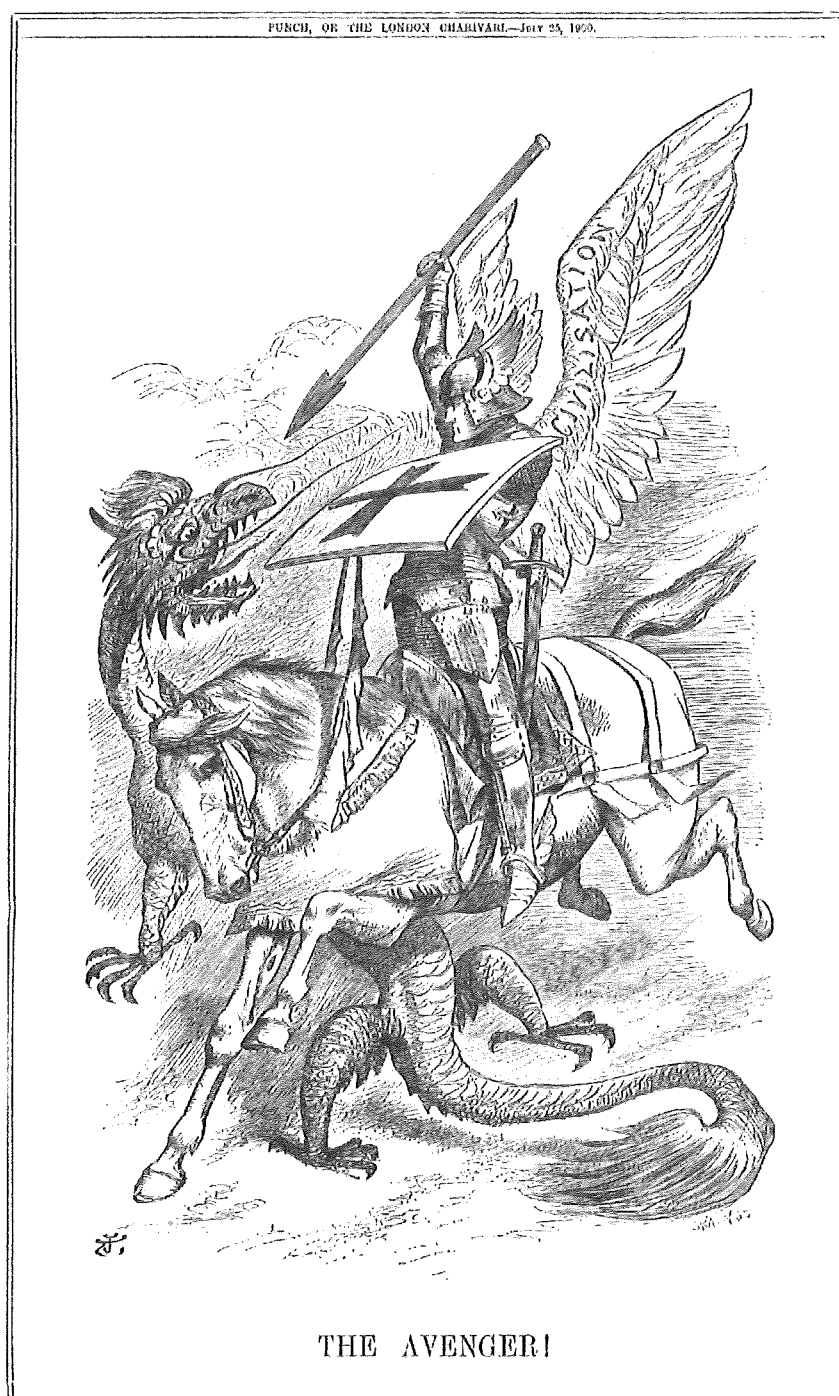
(出典：Martin Luther, *Ausgewählte Werke*, Bd. 4: *Der Kampf gegen Schwarm- und Rottengeister*, hrsg. von H. H. Borchardt und Georg Merz, 2. verb. Aufl., München 1938. なお訳出に際しては、ルター著作集委員会編『ルター著作集』第1集第6巻、聖文舎、1963年も参照した)

カールシュタット博士<sup>(注1)</sup>のこの高等な技術から連想されるのは、比喩的な修辞技法(アレゴリー)に携わっている人々である。聖ヒエロニムスはプロローグス<sup>(b)</sup>において、そのような者たちを道化師になぞらえた。もし私がこの手の技術を駆使するとすれば、デイトリヒ＝フォン＝ベルン<sup>(注2)</sup>からキリストを、彼が戦った巨人から悪魔を、小人<sup>こびと</sup>から謙遜を、ベルンの投獄からキリストの死を、それぞれ仕立て上げることだろう。(中略)あるいは私は、聖ゲオルギウスの伝説を取り上げて語ればよいのだろう。聖ゲオルギウスがキリストで、彼が救い出した乙女が全キリスト教徒で、海中のドラゴンが悪魔で、馬がキリストの人間性で、槍が福音である…といったふうに。

(注1) 急進的宗教改革者。もとはルターの改革思想の支持者であったが、聖像破壊や新礼拝形式の導入を唱えたことでルターと対立した。

(注2) ドイツ中世の英雄物語の主人公。物語中では巨人や小人との戦いや出会いが描かれる。

《資料3》「復讐者！」(『パンチ』1900年7月25日号)



問 1. 《資料1》の空欄  に入る人物は、ローマ帝国時代に活躍したキリスト教の教父であり、『神の国』の著者としても知られる。

(1) 空欄  に入る人物は誰か。その名前を答えなさい。

(2) 空欄  に入る人物がキリスト教に回心する前に信奉していた、ゾロアスター教、キリスト教、仏教などの要素を融合して成立した善悪二元論の宗教は何か。その名称を答えなさい。

問 2. 《資料1》の下線部(a)は、ローマ帝国においてキリスト教への迫害が強まったディオクレティアヌス帝の時代に、聖ゲオルギウスがそうした迫害に屈しなかったという伝承のことを表している。ローマ帝国に関して述べた次の①～④の文のうち、ディオクレティアヌス帝時代の出来事に該当しないものを1つ選び、番号で答えなさい。

- ① 軍人皇帝時代が終焉を迎えた。
- ② 政治体制が元首政(プリンキパトゥス)から専制君主政(ドミナトゥス)へと切り替わった。
- ③ 3名の有力者により第1回三頭政治がおこなわれた。
- ④ 帝国が東と西に分けられ、四帝分治制(テトラルキア)が敷かれた。

問 3. 《資料 2》の著者は、キリスト教信仰が聖書のみによるべきことを主張し、カトリック教会の権威を批判した人物として知られている。彼はまた聖書の解釈について、聖書の本文それ自体を厳密に読み解くことを重視し、《資料 2》の著作ではそうした観点から、読み手の先入観や比喩的な修辞技法にもとづく聖書の読解を批判した。以上のような彼の思想は、16 世紀の西ヨーロッパ諸地域に大きな影響をあたえ、様々な場所で宗教改革が試みられた。

- (1) 《資料 2》の著者がカトリック教会の権威を批判するに至ったきっかけには、当時のカトリック教会が推進した〈あるもの〉の販売事業があった。《資料 2》の著者が「九十五カ条の論題」で異議を唱えたその事業は、どのようなものであったか。事業の背景、および教会が購入者に対して〈あるもの〉の意義をどのように説明したかについても触れつつ、100 字以内で説明しなさい。
- (2) 1536 年に刊行された『キリスト教綱要』の著者である、フランス出身の宗教改革者は誰か。その名前を答えなさい。
- (3) イングランドにおいて、(2)の宗教改革者の教説を信奉し、イギリス国教会による改革を不十分だとして批判した人々は何と呼ばれたか。その名称を答えなさい。

問 4. 《資料 2》の下線部(b)は、4 世紀末から 5 世紀初頭にかけてヒエロニムスにより翻訳された聖書の序文を指す。彼はこのとき、ギリシア語やヘブライ語で書かれていた聖書を  語へと翻訳した。 語は、中世西ヨーロッパのカトリック教会において共通語とされた。さらに 16 世紀には、《資料 2》の著者が聖書を  語へと翻訳した。空欄  および  に入る語句について、正しい組み合わせとなるものを次の①～⑥のなかから 1 つ選び、番号で答えなさい。

- ① A：フランス      B：ラテン
- ② A：フランス      B：ドイツ
- ③ A：ラテン        B：フランス
- ④ A：ラテン        B：ドイツ
- ⑤ A：ドイツ        B：ラテン
- ⑥ A：ドイツ        B：フランス

問 5. 《資料 3》は、イギリスの風刺漫画雑誌に掲載されたイラストである。馬に乗った天使の盾には、無地に赤十字の紋章があしらわれ、聖ゲオルギウスの伝説をふまえていることがわかる。天使の羽には「文明」(CIVILISATION)の文字が書き込まれ、「文明」による「野蛮」の撃退という構図が前面に押し出されている。そしてここでのドラゴンは、このイラストが掲載された当時、中国で大規模な排外運動を展開していた宗教的武術集団を戯画化したものとされる。タイトルに含まれる「復讐」も、この宗教的武術集団が 1899 年 12 月にイギリス人宣教師を殺害した事件に対するものと考えられている。

- (1) 上記の宗教的武術集団とは何か。その名称を答えなさい。
- (2) 上記の宗教的武術集団が排外運動において掲げた漢字 4 文字のスローガンは何か、答えなさい。

問 6. 《資料 3》におけるドラゴンの描き方とは異なり、ドラゴンの漢訳語にあてられることもある「竜」は、古代より中国において神聖な存在として崇められ、また権力のシンボルにもなった。そのため中国では「天子の顔」のことを「竜顔」とも表現したが、紀元前 3 世紀から紀元前 2 世紀にかけて活躍した漢の建国者は、司馬遷の『史記』において、人相そのものが「竜顔」であったと描写されている。

- (1) 上記の漢の建国者とは誰か。その名前を答えなさい。
- (2) 『史記』において採用され、その後『漢書』で定着したとされる、中国の歴史書の記述形式は何か。その名称を答えなさい。

問 7. 《資料 3》でドラゴンに戯画化された宗教的武術集団による排外運動は、日本やロシアをはじめとする 8 カ国の共同出兵により鎮圧され、1901 年には、この 8 カ国にベルギー、オランダ、スペインが加わった 11 カ国が、清朝との講和条約として北京議定書を結んだ。その結果、各国には北京・天津などへの軍隊駐留権が認められた。またロシアはこれに加え、中国東北部からの撤兵を見送り、東アジアにおける南下政策を推し進めることになる。1904 年の日露戦争開戦はそうしたなかでの出来事であった。

- (1) 日露両国は、すでに 19 世紀末の時点から、中国東北部に隣接する朝鮮半島での権益をめぐり対立していた。朝鮮半島を日露戦争の時点で統治していた国家の当時の国号は何か。その名称を答えなさい。
- (2) 日露戦争の講和条約として締結されたポーツマス条約に対しては、日本国内で不満が巻き起こった。人々は条約の内容のどのような点について不満を抱いたのか、30 字以内で説明しなさい。

- 〔 3 〕 生物種として集団生活を基本的特性の 1 つとする人類は、その歴史のなかで、血縁、地縁、種族、宗教、イデオロギー、社会階層、政治制度など多様な要件の絡まり合いのなかで、大小様々なレベルの集団区分を重層的、複合的に生み出してきた。ときにそれらの集団は、その真正性はともかく、過去の別の集団とのつながりを、アイデンティティの一部として自認したり、他者から認定されたり、または否定したりしてきた。以上のことをふまえ、次の問 1 ～ 9 に答えなさい。  
(30 点)

問 1. イスラーム教到来以前のイランには、アケメネス朝やササン朝などの王朝が存在した。これら古代イランの諸王朝の末裔であるという意識は、その後のイランの人々の民族意識に一定の影響をあたえた。16 世紀に成立したサファヴィー朝は、国内を統合するため、シーア派のうち穏健な  派を奉ずる一方で、古代イランの諸王朝で用いられた  という王号を採用した。1925 年に成立した  朝は、近代化と世俗化に努める一方、やはり王号として  を用い、古代イランの伝統の継承を積極的に強調した。上記の空欄  ,  ,  に入る語句は何か。それぞれ答えなさい。

問 2. 現在中華人民共和国を構成する少数民族のうち、東トルキスタンの自治区名となっている人々の名称は、かつて 8 世紀にモンゴル高原で遊牧帝国を打ち立てた集団の名称が、近代に入って東トルキスタンのムスリムの名称となったものに由来する。この少数民族は何か。その名称を答えなさい。

問 3. 8 世紀から 12 世紀にかけて、ヨーロッパでは北欧を原住地とするノルマン人が広範囲に進出し、進出先で新たな政治権力を生み出すなどして、人々の記憶に強烈な印象を残した。ロシアにおける国家の起源についても、東スラブ人の居住地域に進出したノルマン人集団に結びつける伝承が中世から存在するが、現在のロシアではこれに否定的な見方も強い。

- (1) 東スラブ人地域に進出したとされる、上記のノルマン人集団のリーダーは誰か。その名前を答えなさい。
- (2) 東スラブ人地域に進出したとされる、上記のノルマン人集団が建てた国家として正しいものを、次の①～⑤から 1 つ選び、その番号を答えなさい。
- ① モスクワ大公国      ② ノヴゴロド国      ③ ヤゲウォ朝  
④ ロマノフ朝      ⑤ 両シチリア王国

問 4. 元朝では、支配下の人々を、モンゴル人のほか、色目人、漢人、南人と区分することがあった。モンゴル帝国に支配される以前、猛安・謀克という軍事・社会制度をもつ王朝の中核集団であった人々は、元朝治下において、モンゴル人、色目人、漢人、南人のうち、どの区分に位置づけられていたか。該当する区分名を答えなさい。

問 5. 近代国家のなかには、かつて植民地であったときの行政区や地域概念をもとにして、あるいはこれを改変することで、新たな「国民」を創出しようとしたものがある。また「国土」の拡張とともに、その地の先住民族を新たに「国民」として組み込もうとしていくケースがある。

(1) 多種多様な民族で構成されていたオランダ領東インドを、第二次世界大戦後に単独の共和国として独立に導き、その初代大統領となった人物は誰か。その名前を答えなさい。

(2) 1820 年前後のラテンアメリカでは、シモン=ボリバルらの指導のもと、ベネズエラなどスペイン統治時代の複数の行政区を統合して大西洋・太平洋の双方に面する広大な共和国が一時形成された。しかしほどなく、もとの行政区の違いを反映する複数の共和国に分裂した。上記の広大な共和国とは何か。その名称を答えなさい。

(3) 明治時代の日本政府は、先住民族  が暮らす北海道の経営を進め、1875 年にロシアと樺太・千島交換条約を結んだ際には、樺太に住む  を北海道に移住させた。2019 年の  施策推進法において先住民族としての位置づけが法的にはじめて明記された、空欄  に入る先住民族の名称を答えなさい。

問 6. 第二次世界大戦後の西ヨーロッパでは、1950 年代より多国間の経済統合の枠組みが形成され、これが基盤となって 20 世紀末までに政治的な統合も進んでいった。上記の動向に関係する、西ヨーロッパにおける経済統合の枠組みを下記の①～⑧のなかから**すべて選び**、その番号を枠組みの成立年順に並べなさい。

- |        |      |        |         |
|--------|------|--------|---------|
| ① NATO | ② EC | ③ ECSC | ④ TVA   |
| ⑤ EEC  | ⑥ AU | ⑦ OPEC | ⑧ ASEAN |

問 7. 4 世紀後半にドン川を越えて西進をはじめたフン人は、5 世紀前半にはパンノニア平原を中心に大帝国を建設し、451 年にカタラウヌムの戦いで西ローマ・ゲルマン連合軍と衝突した。

- (1) 上記の戦いにおけるフン人の君主は誰か。その名前を答えなさい。
- (2) フン人の民族系統は詳細が不明だが、モンゴル高原にかつて大帝国を築き、のちに一部が西方に移動していった遊牧民集団をルーツとみなす学説が唱えられたこともある。秦の始皇帝や前漢の武帝はこの遊牧民集団と対峙した中国皇帝として知られるが、この遊牧民集団とは何か。その名称を答えなさい。

問 8. 古代ギリシアでは、各ポリスがそれぞれ独立した小規模国家として存在し、統一国家は形成されなかった。しかし、文化的な面に注目した場合、そこには共通の言語や神話、祭典などが存在し、それらを通じて同一集団としての意識が形成されていた。その際、ギリシア人たちは、自分たちをある伝説上の英雄の末裔とみなしていた。この英雄の名前に由来するギリシア人の自称は何か。その名称を答えなさい。

問 9. フランス革命の直前、聖職者や貴族といった特権身分を批判する小冊子『第三身分とは何か』が刊行された。そこでは、第一身分としての聖職者、第二身分としての貴族に対し、そのいずれにも属さない人々が第三身分と呼ばれ、彼らが権利を持ちえない現状が問題視された。この小冊子の著者は誰か。その名前を答えなさい。